

を進めながら受入体制を整えてまいります。

以上の取り組みを通じて、豊かな自然環境と地域資源を活用し、久米島の魅力を広く発信し、持続可能な観光地づくりを進めてまいります。

9 次世代産業の誘致

沖縄県は海の恵みを利用した持続可能な社会経済開発である「ブルーエコノミー」を先導する地域として、豊かな海洋資源を活用した新たな産業の創出を推進しております。本町ではこれまで地域資源である海洋深層水を活用した産業が着実に成長しており、これからの地方創生の取り組みとして更なる産業創出の展開が求められております。

昨年11月に開催された国連気候変動枠組条約締結国会議（COP30）においては、JICAが進めているパラオ共和国へのOTECおよび久米島モデル（淡水化、水産、農業など）展開の研究開発が紹介されたほか、開催地ブラジルの世界遺産の島（フエルナンド・デ・ノローニャ諸島）においては「久米

島モデル」を参考にしたOTECの設置について政府が検討を開始されるなど「久米島モデル」は世界から注目を集めつつあります。

引き続き、久米島海洋深層水活用全体計画を基に、海洋深層水をクリーンエネルギーの供給や食料・水の生産に複合的に活用する持続可能な島嶼コミュニティ「久米島モデル」の実現に向け取り組んでまいります。深層水取水施設の整備については民間事業者と連携し進めてまいりました。が、昨年の包括連携協定の締結を契機に連携を強化して取り組むとともに新たな産業の進出を促進してまいります。

本町の「エネルギービジョン2020」では、2040年までに、町内で消費されるエネルギーの100%を再生可能エネルギーによって自給することを目指してまいります。民間の活力を活かした海洋温度差発電の実用化に向けた取り組みや公共施設や一般住宅への太陽光発電設備の設置を促進するほか、個人や法人に対して電気自動車

や家庭用充放電設備導入費用について一部補助を行います。引き続き、町内における再生可能エネルギーの普及拡大に努めてまいります。

自然・環境について

10 環境保全と地域美化

良好な景観形成を推進するため平成23年度に策定した「景観計画」であります。が、社会情勢等の変化により近年は主要観光エリアにおける宿泊施設の開発需要が生じるなど現行の景観計画では対応が困難になりつつあります。

観光産業等の振興を図りながら、良好な景観を守り・育み、次世代へと受け継いでいくため景観計画の見直しに取り組んでまいります。

「ごみのない島づくり」を実現するためには、地域全体の協力が不可欠です。美しい自然環境を次世代に引き継ぐためにも、行政のみならず町民や事業者が一体となり、環境保全活動に取り組めるよう努めてまいります。

ごみ焼却施設の老朽化

に伴う新たな施設については、令和9年度供用開始に向けて取り組んでおります。

町内の野生動植物については、「久米島町野生動植物保護条例」の普及を推進し、自然環境の保全、保護に取り組んでまいります。

松くい虫防除対策については、専門家による助言をいただきながら、継続して取り組んでまいります。

地域緑化の推進については、緑と花にあふれるまちなみを目指し、町民参加による「花いっぱい推進運動」を継続してまいります。



分野横断について

11 交流人口・移住定住

交流人口創出については、各種イベント開催や教育旅行の誘致、スポーツキャンプ等の取り組みにより一定数の成果がみられることから、引き続き取り組みを継続してまいります。また、交流人口がその後の関係人口および定住に繋がるような地域との交流機会の創出にも取り組んでまいります。

風の帰る森交流施設については、交流人口の拡大に資する施設を目指し昨年からの実証的な開館で得られた知見をもとに引き続き施設運営者の選定に取り組んでまいります。

海洋温度差発電の研究開発の推進や経済・文化など多面的な交流・連携を図り産業振興や地域活性化をつなげることを目的とした、本町と佐賀県伊万里市、佐賀大学による海洋エネルギー連携協定を締結し今年で10年の節目の年を迎えます。これからの新たな展開へ向け、これまでの10年を振り返る記念行事を三者共催で伊万里市